

「令和元年度第2回 阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生有識者会議」議事概要

審議会等の名称	令和元年度第2回 阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生有識者会議
開催日時	令和元年9月2日（月） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	<p>(1) 第2期総合戦略策定の進捗状況について</p> <p>(2) 地方創生アンケート調査結果について</p> <p>(3) 第2期総合戦略の基本施策の体系等について</p>
議事結果	<p>【出席者】</p> <p>(委員)</p> <p>牧山委員長，野口副委員長，石引委員，大平委員，海山委員，国井委員，蓮田委員，成島委員，江田委員，山口委員，木村委員，田島委員</p> <p>(町)</p> <p>湯原町長公室長 政策秘書課：佐藤課長，糸賀補佐，高村主任，宮本主任</p> <p>【主な意見】</p> <p><第2期総合戦略策定の進捗状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズム，バスハイクの実施は良い取組みだと思う。こういった観光PRはもっとしてもいいと思う。 <p><地方創生アンケート調査結果について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中のお母さんがしんどい，お母さん自身が不安という気持ちが強いというのがアンケートにでていると思う。ワンオペ育児という言葉も最近よく聞く。母親の抱える様々な不満が子育ての不満になっているのだと思う。育児が不安というのは，それだけの問題ではないと思う。 ・私は地域として子育て支援の活動に関わっているが，支援策がお母さん方に伝わっていないということもあるのではないかな。 ・保育無償化など，自分の時代から見れば今のお母さんは恵まれている。一方で，親との別居，地域とのつながりが希薄になっていることは大変だと思う。孤立していて支援が必要な人が地域とつながっていけるようにしないといけない。 ・子育てが不満なのではなく，漠然とした生活などへの不安があるのだと思う。町は子育てしやすい環境を作って，それを発信する必要があるし，お子さんが小さい方が集まれるような場所づくりが求められていると思う。 ・心の中に不安を持っているけれど，それを表に出せない人たちが入れるような居場所がないと，子育てや生活に対する漠然とした不安は消えないだろう。

・みんなの前で話せないけれど、一対一では話せる。こういう人には個別相談から入ってもらうのが、支援のやり方だと思う。

・年齢、国籍問わず活躍できるような社会が必要だ。

<第2期総合戦略の基本施策の体系等について>

・町の特性を活かすこと、こういったターゲットに何をPRするか決めた方がいい。

・阿見町は若い人が多く、若い人が多いことをキープする計画が良いと思う。そういう面から町の特徴は何かと考えると、茨城大学、医療大、看護学校があり、阿見に下宿する人も少なくない。学生の下宿を定住につなげられればよい。茨城大学農学部、医療大の学生に町のPRをするのはどうか。

・ターゲットとして若い人、学生を考えるのは良い。関係人口増にもなると思う。

・子育て世代や若い人に町の情報を知らせる手段、これから、特に情報発信を考えていくことが必要だ。

・商工会婦人部から祭りなどで地域の話聞くこともあった。口コミなど、情報発信の手段は様々だ。多様な情報発信をどう進めるかが大切だ。

・行政で作る広報紙は固い。見たくなるような広報紙を研究してほしい。

・重点的にやることは、働く場、子育て支援、町の税収を上げることだと思う。どれも重点的にやるしかない。阿見町のPRをどうするかも考えたい。ふるさと納税で阿見町の特産物を作っているが、これは縦割りではなく横のつながりを大切にやっ行って行かないといけない。

・阿見町は農村部と都市部に分かれている。農村部の3世代4世代のところに都市部の町民に来てもらって、まず町民同士の交流が持てればいいと思う。

・筑西の道の駅では季節の野菜が食べられることをPRしている。町も特産物が食べられる、食を使った交流の場ができるといい。すでに関わりのある港区と食を通じた交流をしてみてもどうか。子育て世代は栄養や食事に気を配っている。阿見町の食の安全性をPRしてみるのもおもしろい。

・若い世代は紙媒体を読まなくなっている。出産など、ライフタイムのイベントがある人に、ラインなどインターネット上の情報発信ができるツールに登録してもらって、そこで情報配信の方が効果的だと思う。

・まちづくりに学生を巻き込むのはどうか。町内の企業に勤めている人など、これからの阿見町を担う若い人と組んで一緒にまちづくりに取り組む方がよいと思う。

・子どものボランティア活動の推進など、地域とのつながりをつくっていくことが大切。それから地域からの情報発信も必要だ。

- 地域でのイベントの時に茨城大学、医療大学の学生にお手伝いに来てほしい。そういう地域のイベントでのボランティアを地域との交流に発展させたい。地域も学生の力を必要としている。
- 他から町に来ている人との交流が大切。新しく町に来る人へのサービスがあってもいい。他から来る人をターゲットにすることを考えると、情報の出し方はなるべくわかりやすく、簡素化した方がいい。
- スイカ、タケノコ、ヤーコン、メロンなど、町の野菜は町の強みになる。インスタ映えするようなやり方で発信すれば、若い人にも注目してもらえると思う。
- 学生がいることも強みだ。大学が3つある町は他にはない。学生を活用するのは、まちづくりに欠かせない視点だ。
- SNS の活用はもっとあってもいい。龍ヶ崎市でも広報の表題を変えたり、表紙を一新した。広報紙が変わったということを SNS で PR していた。更新の頻度を上げることも重要。情報は取捨選択されているし、目につくことが多いほど印象に残る。広報媒体もいろいろあるので選択して、活用してほしい。
- 町の良さをまず町民が知ることが大切だと思う。町の良さを、まず町の中で PR してみてもどうか。
- 「学生のまち阿見」、「自衛隊のまち阿見」というような、他にはない町の資源に注目して PR するという方がいいと思う。こういうことを考えて観光ツアーを作ってもおもしろいだろう。

午後 4 時 00 分終了